

はじめに

この度「ふれあい新聞」の特別号として、田中野田土地区画整理事業を取りあげました。当事業はこの地区にとりましては、後にも先にもない画期的なものであり、何時までも語り継がれる記念すべき大事業であります。したがって、今の時期に何らかの形で記録に留めておくことは、極めて有意義なことと考え、本冊子を刊行することにしました。

この編集のためにご尽力を頂きました関係者の方々に、衷心より感謝申し上げます。

田中野田地区の概況

従前、当地区とその周辺は田園が一面に広がる純農村であった。当地区は、約25haの水田内に40戸足らずの農家が点在し、主として稲と裏作のい草（一部で麦類）を栽培していた。昭和40年代の高度成長により次第に都市化が進み、それに伴って当地区の世帯数も徐々に増加したが、昭和60年以降は250世帯程度で横這状態が長く続いた。その後区画整理の進展に伴って、世帯数は平成5～8年の間に急増し、やがて600世帯の大台を越えようとしている（下図参照）。町内ではアパートやマンションが目立ち、持家世帯率は31%である。

現在、町内を二分する施工途中の岡山西バイパス（通称50m道路）が目立ち気になるが、予定とされる平成17年の「晴れの国おかやま国体」までの開通を目途に努力されている。これにより交通網が整備されると、当地区ではさらに開発が進み、また周辺からの影響もあって、より一層都市化が進展することであろう。

田中野田土地区画整理事業の背景と計画概要¹⁾

当地区は、岡山駅の南西約4.5kmに位置し、全域が第2種住居専用地域に指定された25.1haの地域である。地区中央を縦断する県道当新田一中仙道線（幅員5.5m）を唯一の幹線道路とし、その周辺に農家集落が形成された、農耕地と遊水池が7割以上を占める農村地帯である。地区の西側に御南中学校、岡山総合高等職業訓練校、岡山県総合福祉センターなどの公共施設がある。残る三方は、今土地区画整理組合による区画整理施行地区に接しているため、市街化の進展は必至の情勢で、現に行き止まり道路に面したミニ開発も散見され、このまま放置すれば無秩序な乱開発による、不良市街地が形成されるものと予想された。

地区内には国道180号線と国道2号線とを結ぶ、岡山市の外環状線としての性格を有する福田―宮線（幅員50m²⁾と、市街地中心から本地区に至る大元―辰巳線（幅員27m）という、重点整備路線を含んでいる。このことから市街化の進展に先行して、面的整備手法による総合開発を行い、公共施設の整備改善を図るとともに、住居地として快適かつ安全な新市街地の創造を図ることが、緊急の課題となっていた。

そこで、上記の都市計画道路2路線を基幹とし、生活道路としての機能を有する、幅員9～4mの区画道路を適正に配置するとともに、既存の用水路の整備改善や児童公園の新設などによって、優良住宅地の造成を図ろうとするものである。



↑ 梅雨明けの炎天下い草の刈取作業(往時の一風景)

事業内容

施行面積	25.1ha
施行期間 ³⁾	昭和61年度～平成11年度
総事業費	約27.0億円
補助基本額	約4.9億円
公管金	約15.6億円
合算減歩率	25.54%
都市計画道路	福田―宮線(幅員50m)外1路線
区画道路	幅員4～9m、延長5,267m
公園	3ヶ所、7,544m ²

- 注：1) 平成3年発行「岡山市の区画整理」による。
 2) 国道180号岡山西バイパスと呼ばれている。
 3) 実際の施行は昭和63年度からで、施行終期は計画では平成11年度となっているが、50m道路の整備のおくれで、まだ完了していない。

